

# 水道施設の耐震化状況について

水道施設は、市民生活に欠かせない重要なライフラインで、地震などの災害時にも給水機能が確保され、断水による影響を最小限にとどめることが重要です。ここでは、呉市における水道施設の耐震化の取組状況についてお知らせします。

## ① 浄水施設の耐震化

平成 25 年 4 月から稼働する呉市唯一の宮原浄水場浄水施設は、大規模地震に対する耐震性能を有する施設です。

<b>浄水施設の耐震化率</b> (令和 4 年度末現在)	耐震化の施された浄水施設能力 / 全浄水施設能力 × 100
<b>100.0%</b>	(82,000 m <sup>3</sup> /日 / 82,000 m <sup>3</sup> /日 × 100)

(補足)

大正 7 年の創設期から稼働し老朽化の進行する「平原浄水場」の浄水能力を「宮原浄水場」へ機能統合するとともに耐震化を図るため「宮原浄水場統合整備事業（第 1 期工事）」を平成 20 年度から開始し、平成 24 年度末に工事が完成しました。

## ② 配水池の耐震化

呉市では、起伏があり山々に分断された市域の地形的特性から 107 か所（令和 4 年度末）にもものぼる配水池を保有しています。重要度・優先度に応じて計画的に更新・補強を行っています。

<b>配水池の耐震化率</b> (令和 4 年度末現在)	耐震化の施された配水池有効容量 / 配水池等有効容量 × 100
<b>39.0%</b>	(39,190 m <sup>3</sup> /日 / 100,381 m <sup>3</sup> /日 × 100)

## ③ 管路の耐震化

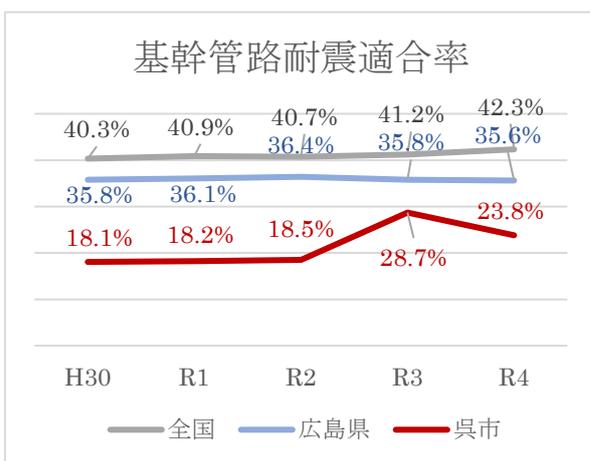
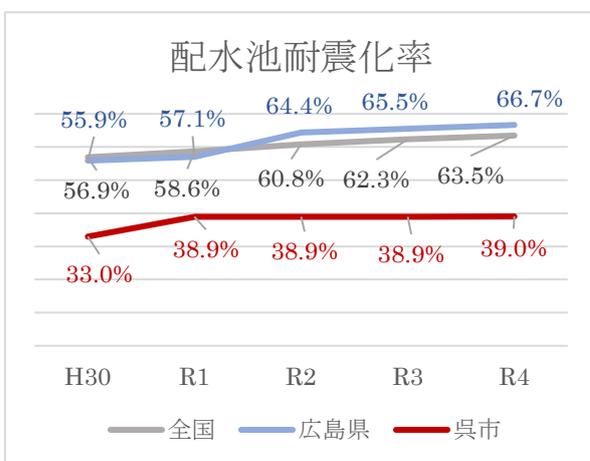
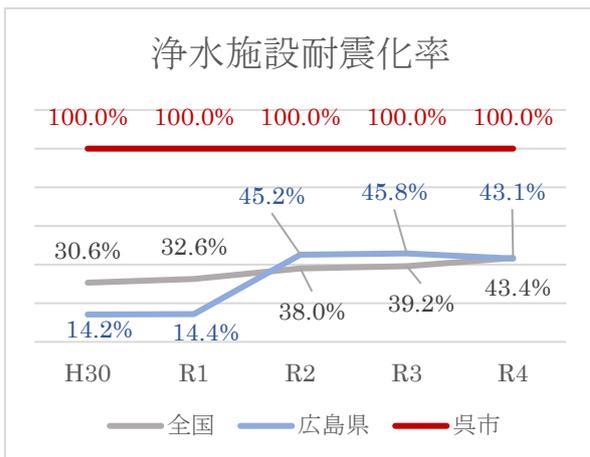
呉市の水道管は、全体で約 1,400 km に及びます。特に漏水リスクの高い昭和 44 年以前に布設された無ライニング铸铁管を計画的に耐震性のある管に取り替え、また、過去に漏水履歴のある休山東部幹線（配水管）と警固屋線（配水管）の更新も継続して施行しています。

<b>基幹管路の耐震適合率</b> (令和 4 年度末現在)	基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長 / 基幹管路延長 × 100
<b>23.8%</b>	(79,125m / 332,292m × 100)

(補足)

基幹管路は、導水管、送水管、配水本管（呉市では口径 200 ミリメートル以上）のことを言います。なお、令和 4 年度から配水本管に位置付ける管を、口径 300 ミリメートルから口径 200 ミリメートルに拡大したため、耐震適合率が一時的に下がっています。

## ■ 水道施設の耐震化率の推移



## ■ 今後の取組内容

呉市における水道施設の耐震化の取組は、令和5年11月に策定しました『呉市上下水道ビジョン2024～2033（令和6年2月改定版）』に掲載しています。

〈ホームページアドレス〉

<https://www.city.kure.lg.jp/site/jougesui/vision2024-2033.html>